

国語×英語
～『羅生門』を英訳する～

對馬光揮（市立札幌藻岩高等学校）

令和7年6月29日（日）

@三重大学

学習指導要領

◆各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（中略）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために**教科等横断的な学習を充実**することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。

◆**深い学びの鍵として『見方・考え方』を働かせることが重要**になること。各教科等の『見方・考え方』は、『どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか』という**その教科等ならではの物事を捉える視点や考え方**である。

深い学びを実現するには**各教科で獲得した様々な視点を連携させることが効果的**であり、なかでも**国語科と英語科は「言語」という共通点により相性が良い教科**であると考えられる。

- ・ 災害等により京都の町が衰微する。
- ・ 「下人」は仕事をクビになる。
- ・ 「生きるためには盗人になるしかない」ということを理解しつつも、下人は**盗人になる勇気を持たずにいた**。
- ・ ひとまず、一晩楽に寝られそうな場所を求めて羅生門の上の楼に上った。
- ・ そこで下人は、死人の髪の毛を抜く「老婆」を目撃する。
- ・ 老婆は、それをかつらにして生活費を稼ごうとしていた。
- ・ 老婆は、「**悪に対する悪**」や「**生きるための悪**」は正当化されうると自己弁護を図る。

ここの英訳にチャレンジ

下人は嘲るような声で「**きっと、そうか**」と念を押す。

- ・ 下人は老婆の服を引きはがして奪い取り、夜の底へかけ下りる。
- ・ 下人の行方は、誰も知らない。

単元目標（育成したい力）

文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する力

1

我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する力

2

文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える力

3

作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する力

4

作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める力

5

目標

英訳を通して小説を解釈し、語感を磨くことでものの見方・感じ方・考え方を深める。

1 下人の心情整理 (個人)

2 共有 (グループ)

3 英訳作成 (グループ)

4 共有 (全体)

5 ベストアンサー選択 (個人) / 共有 (グループ)

6 翻訳者・英語科教諭による英訳の紹介 (全体)

7 振り返り (個人)

1 I see. I'm not wrong.

そうか、きっと俺は間違っていないな。

「right」ではなくて遠回しに「not wrong」にしました。正しいと言いきるのではなく、間違っていないということで若干の妥協を表現しました。

2 Will you forgive me too ?

お前も許すか？

老婆が開き直って髪を抜く行動を正当化している。
念を押しているという表現から疑問文にした。

3 I have no choice.

しょうがない。

下人の心情は、老婆の意見に呆れつつも**自分の正義感を諦めるような気持ち**で、「こうするしかない状況だった」のような意味だと思った。だから日本語訳で「しょうがない」という意味になると思った。ただこのしょうがないは「こういう状況だから別に気にしなくていい」というポジティブな意見のしょうがないではなく、**ネガティブな心情にしたくてこの言葉にした。**

2.生徒による英訳

クラス	①グループで考えた英訳	②その日本語訳	③解説・意図・ポイント
1年5組	I'm sure I'm right	きっと、そうか	「そうか」の部分を英訳するときに、「きっと、そうか」を発言する下人の前の心情は「自分は盗人になる選択肢しかないんだ」というように考えた。「きっと、そうか」を発言したときの下人の心情は「盗人になる選択肢で間違っていないだろう」という意味だと感じた。
	I have no other way too. That's why, whatever I do, she won't hate me. 別解:I have no other way .That's why she will allow me.	俺も他に生きる道がない。だから、俺が何をしようと、こいつは私を恨まないだろう。	老婆が「仕方のないことだから許される」ということを言っていて、それに対して下人は「じゃあきっと俺も許される」と思ったらだと考えたから。別解はなぜかという、「きっとそうか」の後は、「では、俺が、、、」につながるから、一つ目の英文を「恨まないだろう」まで含んでしまうと同じ事を繰り返してしまうから。
	I see.I'm not wrong.	そうか、きっと俺は間違っていないな	「right」ではなくて遠回しに「not wrong」にしました。正しいと言いきるのではなく、間違っていないということで若干の妥協を表現しました。
	I see.	そうか。	・この発言は意図せず口から出たもの→老婆の言い訳じみた話に対して、曖昧な相槌で老婆の話の流れを感じて言った。 ・いずれ自分も飢え死にしてしまうのかという事実を知ったことで老婆の意見に対する若干の納得。 ・老婆の自分の意見を正当化しようとする態度から自分が盗みという悪事を犯しても良いという行動の正当化。
	I'm sure that it is right.	間違いないと思う。私は正しいと確信した。	老婆の話聞いて、下人が盗人になることを正当化・肯定するという意図があると考えたため、このような英訳になった。
	I have no choice but to live too.	私も生きるほか仕方がない。(私も生きる以外選択肢はない。)	老婆の行いや老婆の話聞いた下人は、生きるためには何をしても良い(=生きるしかない、生きるほか仕方がない)と自分を納得させるために言った。
	Ok, I can't help it.	わかった、仕方ない	老婆の話聞いて自分の行動は生きるため、悪くない、仕方ないと自分に言い聞かせるために言った。
	I have found my heart labyrinth exit in myself	私は心の迷宮の出口を自分の中に見つけた。	老婆の話聞き、下人は心の中で葛藤していたがその答えを見つけ出すことができ、盗人になる決断をしたから。迷宮は下人の複雑な心情を表している。
	I'm ready for become a thief.	私は盗人になる覚悟ができた。	下人は、老婆の話聞いて、盗人になることを決めたので、「きっと、そうか。」の一言に盗人になることの覚悟をこめた。
	Maybe,all right.	そうかもしれない。	完全な肯定を表す all right に、それを濁す maybe を付けることで全肯定ではないが肯定を示しました。

You're sure she would, eh?

この女はお前のすることをきっと理解してくれる…
そうなんだろう？

ジェイ・ルービン

アメリカの日本文学翻訳者
ハーバード大学名誉教授

“I’m sure / You’re sure”は「**きっと**」という意味。
“she would”は前段の“**I think she’d understand what I’m doing to her.**”（この女だって私がしたことを理解してくれるだろう）という老婆の発言を受けた表現。“understand what I’m doing to her”を**省略**することで原文の余韻が表現されている。
“eh?”は間投詞（Ah / wowなど）の一つで、「**だろう？**」「**そうではないか？**」「**えっ？**」「**何だって？**」という意味を持つ。

I know who I am now.

自分が何者か、今、わかった。

黒井 先生

開成中等教育学校
英語科

下人は自身の衝動を抑えられない人間であり、それを正当化しようとしているものの、その行動は非常に暴力的であると思いました。もちろん、彼をそうさせたのは彼自身の問題というより、もっと大きな時代・社会・環境などの要因もあると思います。

「きっと、そうか」とは、老婆の話を聞いた下人が自身の中にいる悪魔の存在に身をゆだね、ようやく「自分が何者か」がわかった瞬間の言葉だと捉え、闇落ちした悪のヒーローのようなセリフにしてみました。

Then so be it.

それなら、そうしよう。

菅原 先生
藻岩高校
英語科

“Then”には「それならば」「そうしたら」といった意味が含まれています。

“so be it”は英語のイディオムで、映画でもよく使われる会話表現の一つです。「対峙している問題や状況をそのまま受け止める」という意味合いを持っており、ネガティブ・ポジティブ両方の文脈で用いられるため、その意味合いも文脈によって微妙に変わっていきます。

下人の心情をある一つの解釈で制限しないような訳し方を意識してみました。

3. 翻訳者・英語科教諭による英訳

ルービィン・ジェイ	<p>You're sure she would, eh?</p> <p>この女はお前のすることをきっと理解してくれる…そうなんだろ？</p>	<p>“I ‘m sure/You’re sure”は「きっと」という意味。 “she would”は前段の“I think she’d understand what I’m doing to her.”(この女だって私がしたことを理解してくれるだろう)という老婆の発言を受けた表現。”understand what I’m doing to her”を省略することで原文の余韻が表現されている。 “eh?”は間投詞(Ah/wowなど)の一つで、「だろう?」「そうではないか?」「えっ?」「何だって?」という意味を持つ。</p>
小島嶽	<p>Are you sure?</p> <p>本当にそれでいいんだ？</p>	<p>日常会話でよく使われる表現。 “Really?”に近いが、“Are you sure?”はどこか疑問を感じている時に使われ、「本当なのか?」「確かめようとしてそう言っているのか?」「本当にそれでいいのか?」と念を押す意味合いを持つ。 例:パソコンでデータを入力中に保存せず閉じようとした時“Are you sure you want to leave this page?”(本当にこのページを離れますか?)</p>
黒井先生	<p>Now I finally understand.</p> <p>今、ようやく分かった。</p> <p>I know who I am now.</p> <p>自分が何者か、今、わかった。</p>	<p>老婆に出会ってからの場面では、下人の葛藤と心情の変化が描かれていました。私は、この心の揺れの正体が何者か分からずに下人が苦しんでいるように思えました。そして老婆の話聞き、老婆という「悪」と出会うことでようやく自身の「正体」を認知し、肯定できたのではないかと感じました。「きっと、そうか」は「自分自身の悪の存在を認知できた言葉」であり、その時の下人は、難解な問題を理解できたというある種の「解放感」もあったのではないのでしょうか。</p> <p>下人は自身の衝動を抑えられない人間であり、それを正当化しようとしているものの、その行動は非常に暴力的であると思いました。もちろん、彼をそうさせたのは彼自身の問題というより、もっと大きな時代・社会・環境などの要因もあると思います。 「きっと、そうか」とは、老婆の話聞いた下人が自身の中にある悪魔の存在に身をゆだね、ようやく「自分が何者か」がわかった瞬間の言葉だと捉え、闇落ちした悪のヒーローのようなセリフにしてみました。</p>
金子先生	<p>Of course, she would.</p> <p>言うまでもなく、その女もそうするということだな。</p>	<p>”she would“は、老婆の生きるための悪を主張する自己弁護の最後「～そのしかたがないことを、よく知っていたこの女は、おおかたわしのすることも大目に見てくれるであろう」に対してストレートに「その女はそうするだろう」を表す表現です。実際には老婆が髪を抜いている女はすでに死んでおり、意思の確認はできないことから「(その女の意味を確認する術があるならば)大目に見てくれるんだろうな」と非現実的な条件が含まれるため、仮定法のwouldを用いています。 ”Of course“については、「きっと」を単純に英訳すると”maybe“や”surely“などの副詞、もしくは推量の助動詞を使って表すことになるかと思いますが、”Of course“(もちろん、言うまでもなく)という強い肯定をここで用いたのは、この状況で下人の放つ「きっと、そうか」は「生きるためには盗人になるしかないことを理解しながらも、盗人になる決心がつかない自分を奮い立たせる言葉」だと考えたからです。死んでいる女が老婆を大目に見るかどうかはわからない(どうでもいい)が、老婆の論理を無理やり肯定し、自分がこれから老婆に対して行う行為も正当化してしまおうという下人の気持ちを”Of course“で表現しました。</p>
天野先生	<p>Oh, I got it. Why didn't I think of it?</p> <p>そうか、わかったぞ。それだ。なぜそれを考えなかったんだ。</p>	<p>“I got it.” はカジュアルに相手に対して「わかったよ」という返事でも使われますが、その単語が持つ意味の通り、「何かを得た」ということなので、老婆の言動を目の当たりにして、ピンとひらめいた感じを表現しました。 そして、“Why didn't I think of it?” は、直訳すると「なぜ私はそのことを考えなかったのか」ということですが、否定疑問文なので「なんでそんなことにも気づかなかったんだ、それがいいじゃないか、それだよ」と自分の気付きに納得しているニュアンスを表現しました。</p>
野田先生	<p>That's what I've wanted.</p> <p>それがやりたいと思っていたんだ。</p> <p>That's what I should.</p> <p>それが俺のすべきことか。</p>	<p>下人の「したい」という感情は、揺れ動きつつも冒頭から現在に至るまで続いているため、状態動詞の現在完了形(have+過去分詞)を用いました。 本来、“wanted”の後には”to do”が来るはずですが「きっと、そうか」という短い原文を表現するために省略しました。 また、現在完了の”have”は、口語でははっきりと発音されずに’veという音で発音されることが多いので、“I’ve”にしました。</p> <p>冒頭の本文「盗人になるよりほかにしかたがない」を踏まえると、「したい」ではなく「すべき」という英訳も考えられます。 “must”も同じような意味合いがありますが、“must”は自発的に行うもので、“should”は外発的な要因によって行為するニュアンスを持っているので、洛中の衰微を受けて盗人にならざるを得なかった下人としては、“should”を用いるのが効果的だと思いました。</p>
沢出先生	<p>This is humans.</p> <p>これが人間なのだ。</p>	<p>生きるためには何をしてもいいという自己中心主義を、何の臆面もなく述べる老婆に対して、「お前の言うことはわかった」という主旨を短く伝えるならば、“I’m sure you are right.”や“I got it.”といった英訳が可能でしょう。 あるいは、葛藤していた下人が老婆の話聞いて「吹っ切れた」と解釈するならば、意志を表す助動詞“will”を使い、“I will decide to be a theft.(盗人になってやる)”や“I will survive no matter what I do.(どんなことをしても生き抜いてやるぞ)”という訳も考えられます。 しかし、私は老婆の自己弁護の中に3回登場する「しかたがない」という言葉に注目しました。老婆の話聞き、下人の中で芽生えた「諦念」をここで表現しようと思い、この訳を考えました。</p>
市澤先生	<p>Nothing must be more precious than my life.</p> <p>自分の命よりも大切なものなどないに違いない。</p>	<p>「きっと、そうか」を、①「きっと」と②「そうか」に分けて考えました。 まず「そうか」については、文脈から「自分の命以上に大切なものなど、この世にないのだ」と解釈しました。この部分の英訳については、高校の文法書でも鉄板例文である“Nothing is more important than time.”(時間より大切なものはない)を応用しています。 次に「きっと」については、確信のニュアンスを含む助動詞“must”を選びました。どちらの表現も高校1年生で扱うものなので、予習がてら参考にしてもらえると嬉しいです。</p>
菅原先生	<p>Then so be it.</p> <p>それなら、そうしよう。</p>	<p>“Then”には「それならば」「そうしたら」といった意味が含まれています。 “so be it”は英語のイディオムで、映画でもよく使われる会話表現の一つです。「対峙している問題や状況をそのまま受け止める」という意味合いを持っており、ネガティブ・ポジティブ両方の文脈で用いられるため、その意味合いも文脈によって微妙に変わっていきます。 下人の心情をある一つの解釈で制限しないような訳方を意識してみました。</p>

4.英語科教諭の英訳に対する生徒の感想

英訳者	英訳文	生徒の感想
黒井先生	Now I finally understand.	今ようやく分かったと強い確信にすることで、今までの下人のどうにもならないモヤモヤな気持ちが一気に解放されるというダイナミックな心情の変化が、たった一文だけれどもとてもよくわかるから。 下人は老婆に会ってから、自分が持っている「正義」というのはなんなのかということを考え、洛中という盗人や悪い人たちがたくさん住むようになってしまった都で「自分の正体」を改めて認知でき、自分も生きるためにはそういうこととしてもよいという気持ちが表現されていて、自分たちのグループの意見に近いような気がしたから。
	I know who I am now.	自分の解釈・考えと一番近く、自分が表現しづらいと感じた部分をきれいに表現してくれたから。 自分の在り方に答えを見つけて、下人がその答えを諦めながら受け入れてる感じが凄くしっくり来たのと、自分では出すことのできない一歩踏み込んだ英訳だったから。
金子先生	Of course, she would.	she would のあとに続くのはおそらく、自分を恨まない、許す、ということだと思いました。このように、書いてないけど、聞いた人に伝わるおしゃれな英訳だと思いました。 自分たちのグループはmaybeとsurelyで悩んでいたけど、もとの文章から派生させてof courseを使っていることに先生のオリジナリティを感じた。
天野先生	Oh, I got it. Why didn't I think of it?	自分の思っていた訳とは少し違った視点で、下人自身がひらめいたニュアンスになっているのが、凄く心に残ったから。 天野先生の英訳が印象に残っています。「ピンとひらめいた」というのが、下人が盗人になった”きっかけ”の老婆との出会いが強調されているような感じがして、その”きっかけ”が強調される英訳は私には思いつかなかったからです。
野田先生	That's what I've wanted.	「きっとそうか」の一言に現在完了を使うことがまず斬新だなと思ったし、短い訳で読みやすいから。 私は「前からこういう運命になるはずだった」と捉えていたので、野田先生の「揺れ動きつつも冒頭から現在に至るまで続いている」という解説に共感できました。
	That's what I should.	物語の冒頭部分を読んだら「仕方がなく盗人にならなきゃいけない」というニュアンスで書かれていたので、しなくてはいけないことという周りから与えられた責務を表現しているのがいいなと思いました。 msutは自発的、shouldは外発的な要因によって行為をするというニュアンスがあるということを踏まえて英訳することで新しい視点が生まれたから。
沢出先生	This is humans.	読んだときに私が最初抱いていた下人の人物像を思い出させられた訳だった。なんというかハッとしました。 様々な先生の訳があり、どれも納得のいくものであったが、「これが人間なのだ。」という意味のこの訳が作者が羅生門を通して伝えたかった「道德」の意味を汲んでいると感じたから。
市澤先生	Nothing must be more precious than my life.	内容をかみ砕いて英訳しているので外国の方が読んでも分かりやすい文章だと思いました。 文法を丁寧に解説してくれていたから勉強になった。やっぱり文法とかを知っていないと自分たちの考えがあっても表現しきれないと思った。
菅原先生	Then so be it.	呟いたようなニュアンスもあり、言葉の曖昧な感じも含めて「きっと、そうか」という言葉に似ていると思った。 私が本などを読んでいて楽しいと感じる瞬間は、自分で色々と考えたり勝手に自分なりに解釈をして納得する時なので、読者によって異なる読み取りができるような訳になっているのが1番好きだったから。

きっと、そうか。老婆の話が終わると、下人は嘲るような声で念を押した。

1	疑問	明日は雨ですか
2	確かめ	どうしても行くのか
3	相手の意見に論じ返す	本当にそうでしょうか
4	相手を責めて問い詰める	人の言うことが分からないのか
5	念押し	早く起きろと言ったではないか
6	独り納得した気持ち	そうか、俺は死ぬのか

對馬の考え

① 「か」をどの用法で解釈するのか？ ⇒ 「2」「5」「6」

② 「誰」に念を押したのか？

⇒ 自分自身

➔ 「これが俺の生きる道か。」

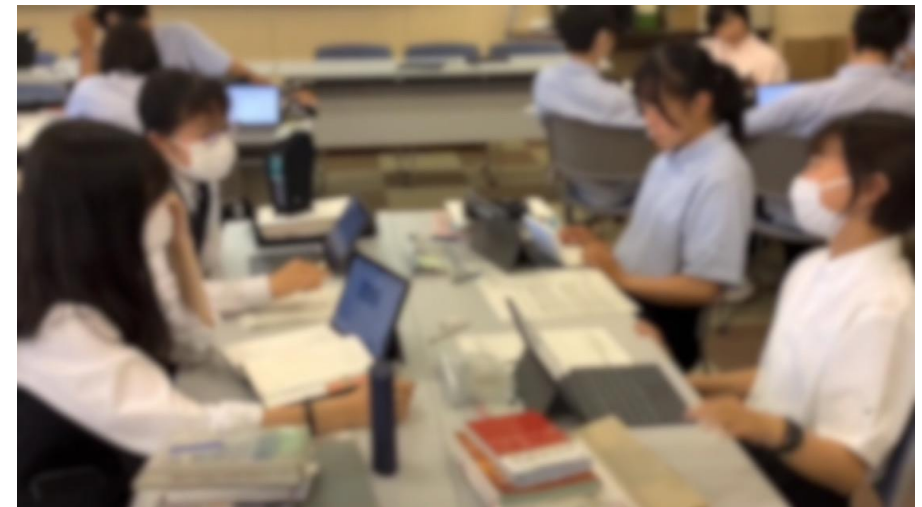
確かめ

納得

覚悟

諦め

今回グループで英訳するにあたって下人の心情について深く深く掘り下げながら意見の交換や疑問の共有を行うことができました。また他のグループや先生方の英訳を見て色々な表現方法があり自分の視野になかったことも発見する事ができてとても学びにもなりどんな表現があるのかワクワクして楽しみながら授業を進めることができました。自分だけでは考えが及ばないことでもグループワークを行うことで様々な意見交換ができ新たな疑問も生まれ知識の幅がどんどん広がっていくことを実感したので今後もグループワークを行う時には積極的に参加しようと思いました。とても楽しい時間でした。



1.言語とその役割についての理解

日本語と英語の違いや特性について、授業を通じて実感した。言語によって捉えられる解釈が異なることを面白いと感じた。

2.日本語のニュアンスと英語訳の難しさ

日本語の短いフレーズや言い回しの英訳を通じて、日本語のニュアンスや意味を正確に伝える難しさを実感した。慣れない言語での表現に苦労する一方で、それが深い考察を促すきっかけにもなった。

3.解釈の幅と多様性

同じ文章でも、人によって解釈や感じ方が異なることを学んだ。それによって、言語や文学の解釈に対する新たな視点や考え方が広がった。

4.言語の結びつき

国語と英語の授業が組み合わさったことで、言語の関係性や翻訳の難しさを理解した。日本語と英語の相互作用が深い学びをもたらした。

5.グループワークの価値

グループでの訳し合いや意見交換を通じて、他者の視点や考え方を理解し、自分の考えを深めることができた。多様な解釈や表現方法に触れ、新しい発見があった。

6.深い理解と感銘

文学作品や言語の解釈に深く関わることで、より深い理解と感銘を得た。言語や文学の奥深さや豊かさに気づき、それを楽しんだ。

◆生徒たちの感想を見ると、異なる教科を組み合わせた授業で新しい学びを得たという共通点がありますね。羅生門を英語で学ぶことで、文章の解釈や表現方法について深く考える機会を持ったようです。他のグループの英訳を見て、様々な視点や解釈の違いに気付いたり、自分の意見を広げるために他者との交流が重要だと感じたりしたようです。

◆また、英語と日本語の言語の違いについても興味深く感じている様子が伝わってきます。それぞれの言語のニュアンスや表現方法の違いが、物語や文章の理解にどのように影響するかを考えることで、より深い学びを得たようです。

◆こうした授業を通じて、読解力や表現力を高めるだけでなく、他者との意見交換や異なる視点を受け入れることの重要性も学んだようです。

7.文学作品×教科横断的な学習＝言語活動の充実

『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』

1.知的活動（論理や思考）に関すること

各教科等の指導において論理や思考といった知的活動を行う際、次のような言語活動を充実する。

○**事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること**

○**事実等を解釈するとともに、自分の考えをもつこと、さらにそれを伝え合うこと**で、**自分の考えや集団の考えを発展させること**

2.コミュニケーションや感性・情緒に関すること

各教科等において、コミュニケーションに関する指導を行う際には、**他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を尊重し理解する**など互いの存在についての理解を深めるような言語活動を充実する。

各教科等において、**感性や情緒**に関する指導を行う際には、体験したことや事象との関わり、**人間関係、所属する文化の中で感じたことなどを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりする**ような言語活動を充実する。

マナブベイ

「マナブベイ」

「マナブベイ」は、高校における国語科を中心とした教育実践をアーカイブしたサイトです。

授業

